

TANGO

丹後普及センターだより

発行 平成18年10月

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波855

京都府峰山総合庁舎内

京都府丹後農業改良普及センター

電話0772-62-4308

FAX0772-62-5894

<http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/tango-f/>

第5号



上山神社の神楽(平成18年4月)



田植え体験(平成18年5月)



伊根の暮らし座談会Ⅱ(平成18年2月)



伊根の暮らし座談会Ⅰ(平成17年12月)

農のあるライフスタイルを支援しています

都市に暮らす人には、田舎暮らしを望んでいる人がいます。Uターン者を含めて農業の担い手になっていただくことで地域を元気づけようと、平成18年4月25日に「筒川むらづくり委員会」が発足しました。

農業改良普及センターと委員会は、伊根町筒川地域に都市住民を受入れるための合意形成や条件整備を進めています。

暮らしの座談会・ワークショップ・農作業体験等を開催して都市の方に地域や農業の実態を知っていただきました。

今後は、定住を希望する方々への情報発信と、地域の皆さんが委員会活動に協力していただく仕組みづくりが課題です。

～知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権～

普及センターでは各種講座を開催しています

本格的な農業にチャレンジされる皆さんの農業技術習得。生産者と消費者の顔が見える地産地消推進。観光地の条件などビジネスチャンスを活かした魅力ある「直売所」づくり。担い手の確保・地域活性化に結びつく集落営農ビジョンづくりと具体化。安心・安全そしてエコファーマーなどの環境に優しい農業生産活動。これらを支援するため普及センターでは、公開講座などを開催しています。実施いたしました講座には、たくさんの方々に参加していただいておりますが、講座のねらいは新しい農業者確保・農業経営者の目標達成・豊かで魅力ある地域づくりの実現等につなげることです。今後ともこうした講座を予定しておりますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしておりますとともに、普及指導活動へのご理解、ご支援、ご協力をお願いいたします。

「丹後農業基礎講座」

農業基礎講座では、これから本格的に農業に取り組もうとされている退職予定者や、今まで補助的に農業に携わっておられた女性など11名が参加され、全7回の講座を受講中です。

一人でも多く地域特産物の出荷者となられることを目指して取り組み、より実践的な内容となるよう、生産農家にも講師としてご協力いただきました。

黒大豆、野菜、花等の栽培技術に加え、農業機械の実習も予定しており、受講者の営農開始に役立つよう講座を進めていく予定です。



「丹後集落営農講座」

普及センターでは、来年度から実施の新施策への対応等に向け、集落営農講座を開講（5回シリーズ）しています。

第1回は、25名のリーダーが集まり、農地を守る体制づくり、担い手づくりや集落営農の活性化等について、活発な話し合いが行われました。

第2回では、視察研修を実施しました。参加した28名のリーダーは、福知山市の「あぐ里興」と「みたけ農産」で「変える展望を示すことがリーダーの仕事である。」と先駆者の貴重な経験を吸収しました。

今後はリーダーが各地域の現状を認識し、自分達の集落に合った集落営農ビジョンを構築できるよう、引き続き講座を開催していく計画です。



「丹後直売所セミナー」

直売所規模は、数名から100名以上と経営形態も様々な生産者が受講しています。

第1回は、「できるだけ農薬を使わない栽培技術、消費者に求められる農産物とは」など安心安全な農業生産について講座を開催しました。

第2回では、「売上げを伸ばすための販売技術」をテーマにポップの作り方や鮮度保持技術を習得しました。

今後は「心」を売ることや、PR・イベントの開催により季節感があり、地域貢献できる直売所を目指すこととしています。



「丹後環境保全型農業シンポジウム」

普及センターは丹後農業研究所との共催で「環境保全型農業シンポジウム」を開催しました。

エコファーマー、消費者、食品企業、関係機関等が生産技術・思い・行政や地域で支える仕組みの実態を、会場に参加の約

60名とともにディスカッションを行いました。

環境保全について話し合うことで生産者と消費者の接点が見いだせ、同じ方向性を確認することができました。

今後も情報の相互交流を進め、農業を支援していくことが大切であるとまとめました。



丹後地域の動き

京都府育成「H系統」検討会

コギクの主産地宮津市では、7月下旬から本格的に盆コギクの出荷が始まりました。

8月1日、多くのコギクが持ち込まれる集荷場において、平成16年度から現地試験を継続している「京都府育成H系統(H13)」の普及性について検討会を行いました。



この品種は開花が気象変動の影響を受けにくい特徴があり、今年も開花期が安定していました。

試験栽培をいただいた担当農家から、盆需要期の有望な品種として高値販売への期待が聞かれました。

丹後国営開発農地で茶の初摘み

平成16年から丹後国営開発農地に植栽が始まった茶は、22haまで拡大し、初めての収穫を迎えました。この間には、担い手確保、土壌浸食など数々の課題を生産者と協力しながら克服してきました。

5月22日は「茶の匠塾」が、塾生や関係者、地元の小学生の参加により茶摘み会を開催しました。

今後も「茶の匠塾」の活動を支援する中で、担い手の技術習得に力を入れていきます。



小豆省力化栽培現地実演研修



7月27日、普及センターと丹後農業研究所は、丹後町竹野沖田の1ha

区画ほ場において、小豆の生産拡大を目指し、集落営農組合のリーダー・関係機関の参加の下、部分耕狭条密植とハイクリアランス乗用管理機による除草剤散布の実演を行いました。

農家は、京都府産小豆の需要増加に備え、効率的な省力機械化栽培を研修しました。

11月には汎用コンバインによる収穫実演会を計画しています。

農薬ドリフト対策実証試験を実施

6月14日、普及センターは、果樹栽培の農薬飛散を防止するため、防除所の支援を得ながら丹後農業研究所、JAと協力してスピードスプレーヤ(SS)での散布方法について実証試験を行いました。

その結果、SSの旋回時に不要なノズルを閉じることによってドリフトを低減できることが、あらためて実証されました。

